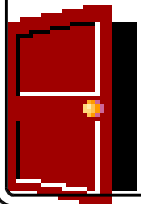


《読書活動の楽しさと大切さを伝えたくて》



読書活動への扉を開く！

桑村小学校 令和5年1月20日 文責 渡邊

工藤勇一氏の個人的な話に共感！

『最新の脳研究でわかった！自律する子の育て方』（工藤勇一・青砥瑞人共著 SBクリエイティブ株式会社 2021年5月）の中で、工藤氏は個人的な話として次のような文章を掲載しています。

ここで少し私の個人的な話をさせてください。

私にはいま小さな女の子の孫がいます。私の子どもは2人とも男の子だったので、はじめての身近な女の子の育ちを興味深く観察しています。はじめは少し臆病なところがあって、おもちゃを前にしても自分にできそうなこと以外、なかなか挑戦しようとしませんでした。慣れてくると、気の向くままなのか、新しいことに次々と挑戦することもあり、イライラしたり、泣いたり、笑ったり、驚いたりする表情と併せて変化し成長する姿が面白くてたまりません。

でもさすがに息子夫婦は、自分の娘の姿を私たち夫婦のように楽しんでばかりではいけないこともあるようで、時には先を読んでついつい手を貸そうとする場面だったりあります。

情報化社会、インターネットで調べれば、子どもの発達に関する情報は溢れかえっています。人と比べるなどいくらいっても余計な情報が次から次へと入ってきます。そうした情報に時折心配になることがあるのも当然でしょう。

本人が手を貸してほしいときに手を貸す。望まないときにはじっと待っている。時間にしたらほんの数秒かもしれませんが、どうしてあげるのがこの子のためになるのか、息子夫婦の試行錯誤する姿を眺めながら、子どもの主体性を生かしていくことの難しさと大切さを改めて感じながら、この本をつくりました。(P217. 218)

私も個人的な話をさせてください。

右の写真は、私の孫の写真です。「命の授業」を行うときに登場します。とても愛おしい存在です。彼らとのエピソードを紹介します。

買い物に娘家族と商店に出掛けました。

孫「じいじ見て、メロンが箱の中にあるよ」

私「そうだね」

孫「なんかおいしそうだね！だって箱にあるじゃん」

孫「じいじ、メロン好き？おれ好きなんだ」

私「じいじも好きだよ」

孫「おれ、箱の食べたことないんだよな」

すると孫はわたしの手の甲をスリスリしながら

孫「じいじ、どういう味がするのかな？食べないと分からないよね」スリスリ

孫「じいじ、買って、食べてみよっか！うん、それがいいよ」

そう言って、化粧箱に入ったメロンを大事そうに買い物かごに置く孫であった。

幼いながらも化粧箱に入ったメロンが高価なものであることを認識しているようで、勝手に買い物かごに入れることはありませんでした。

果たして、この買い物が孫にとって有効であったのかは分かりませんが、なぜかいちばんの笑顔を見せたのは娘夫婦でした。



【渡邊校長「命の授業」より】

自己肯定感がストレス耐性を上げる

これも『最新の脳研究でわかった！自律する子の育て方』（工藤勇一・青砥瑞人共著 S Bクリエイティブ株式会社 2021年5月）の中に書かれていたものです。

自己肯定感がストレス耐性を上げる

子ども自ら心理的安全を感じやすい人間に育ってもらうため大人にできることは、ストレス適応の仕方を学んでもらうこと以外に、「ストレスをストレスとして感じにくい脳」に育てることも重要です。

実はそのもっとも効果的な手段は、子どもの自己肯定感を上げることです。自己肯定感とは「自分ならできる」「自分ならなんとかなる」という自己イメージのことです。（中略）

実は自己肯定感は心理的安全と深い関係があり、ある研究によると自己肯定感が高い状態にあるほどストレスホルモンの分泌量が減ることがわかっています。（p76）

11月29日の朝会で、校長は全校児童に向けて次のような話をしました。

「私たちは、それぞれに顔が違うように、良いところもそれぞれ違います。でも私たちには必ず良いところがあります。目を閉じてください。しばらく時間をおきますので自分の良いところを見つけた人は静かに手を挙げてください。はい、ありがとう」

本校の全校児童数は、80名です。このとき自分に良いところがあることを自覚し手を挙げた児童は30名程だったのでしょうか。半分までは至っていなかったように記憶しています。

学校では、それぞれのクラスで「よいこと見つけ」を行い、友達の良さを認めています。

これを全校での取組へと広げました。自分の良さを見出せない子もきっとこのことを契機に良さに気付くきっかけとなったのではないのでしょうか。

12月23日の冬休み前の朝会で同じ問いを投げかけました。前回よりも多くの児童が自分の良さを発見することができました。



【朝会で話す校長】



【桑っ子感謝の木】



【感謝の気持ちを文にしました】

----- 切り取り線 -----

「読書活動の扉を開く」（1月20日号）を読んでの感想

（ ）年（ ）